

国語科学習指導案

I 単元 ふしぎな出来事について想像したことを聞き合おう（『もうすぐ雨に』）

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

①知識及び技能

変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態を具体的に想像するために必要な語句に関わる知識及び、それをを用いる技能

②思考力, 判断力, 表現力等

変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付けて、より具体的に想像し、表現する力

③学びに向かう力, 人間性等

積極的に友達と関わりながら想像したこと同士を結び付けて、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像しようとする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1)

オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。

〔思考力, 判断力, 表現力等〕C 読むこと(1)

エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像すること。

(3) 単元の価値

本単元では、『もうすぐ雨に』（光村3年）の中で起こる不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合う学習を行う。教材として『もうすぐ雨に』を用いる価値及び、言語活動として不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合うことの価値は以下のとおりである。

『もうすぐ雨に』は、ファンタジー作品である。動物の声が聞こえるという日常では起こりえない不思議な出来事を通して、主人公である「ぼく」が動物たちの世界を垣間見ることとなり、次第に動物たちの事情に理解を示すようになっていく。この物語を読んだ子どもたちは、不思議な出来事に対して疑問を抱き、解決したいという思いをもつ。また、その疑問は子どもたち一人一人違うものであるため、子どもたちはその違いに気付くことで一層物語への興味・関心を高めていく。それらの思いをもちながら互いに想像したことを聞き合うことは、積極的に想像したこと同士を結び付けて、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像しようとする態度を養うことにつながる。

この物語は、「ぼく」の視点で書かれており、僕の心内語が物語の随所にちりばめられている。また、僕の中から見た物語世界の描写には、「チリン」や「びよんびよん」といった様子を表す言葉や、「太い雨が道をたたいて」「まるで、がっそうの前の音合わせみたい」といったたとえ

の表現が用いられている。物語を読み進め、出来事の状態を想像する中でこれらの表現に触れることは、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態を具体的に想像するために必要な語句に関わる知識及び、それを用いる技能を高めることにつながる。

この物語は、一行空きによって九つの場面に分かれており、それぞれの場面に「ぼく」と動物をめぐった一つの出来事が起こる構成となっている。それらの出来事の中には、変化する登場人物の様子や気持ちも描かれているため、物語全体をより具体的に想像するためには、一つ一つの出来事の状態を明らかにし、それらを結び付けていく必要がある。また、出来事に対して一人一人違う疑問をもつ子どもたちが想像することは個々に異なっており、その違いは非日常の世界を描いた物語であればことさらに大きい。その違いに価値を見だし、友達の想像したことを聞こうとすることが、友達の想像したことの表出を促し、想像したことを結び付ける原動力となる。よって、一つ一つの不思議な出来事に着目して想像したことを聞き合うことは、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付けて、より具体的に想像し、表現する力を高めることにつながる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「みんなはどこが好き？」(『ちいちゃんのかげおくり』)における、複数の登場人物が関わる出来事の状態を場面の移り変わりとして結び付けて、想像したことを聞き合う学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、3年「音読発表会をしよう」(『きつつきの商売』)において、二つの異なる場面の様子について想像したことを基に、音読を工夫する学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった、子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 物語に用いられている様子を表す言葉に着目し、物語の場面の様子を具体的に想像する際に用いることができるようになってきている。このような子どもたちが、『もうすぐ雨に』に使われている様子を表す言葉やたとえの表現といった言葉の使い方に着目し、出来事の状態を想像する際にそれらを用いることができるよう、想像の視点「見る位置」(「(登場人物に) なって感じる」「(登場人物を) 見て気付く」)と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。
- ② 異なる二つの場面について、それぞれ具体的に想像することができるようになってきている。このような子どもたちが、出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、叙述を根拠に想像したことを書き込む、ペアで1枚の本文シートを用意する。
- ③ 音読発表会に向け、友達と想像したことを聞き合いながら物語を読むことのよさを感じ、物語を読むことができた。このような子どもたちが、『もうすぐ雨に』についての疑問の解決に向け、必要感をもって想像したことを聞き合う学習に取り組めるよう、内容ごとに類型化した初発の疑問を一覧化した掲示物を提示する。そして、疑問の解決状況を振り返る機会を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習(6/8時間目)

- 1 ねらい ⑦⑧の場面で起こる出来事の状態について想像したことを聞き合う活動を通して、想像したこと同士を結び付け、変化する「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状態について、

より具体的に想像することができる。

- 2 準備 想像の視点（「見る位置」と「見方」）を示した本文シート 初発の疑問を一覧化した
 掲示物 前時まででに想像したことをまとめた掲示物 振り返りシート
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだんと「ぼく」は動物たちの声が聞こえることがわかってきたのだね。 ・でも、今日の場面ではまた声が聞こえなくなりそうだよ。何が変わったのかよく分からないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○はっきりしていない出来事や、はっきりさせたい出来事が明らかになるよう、前時の振り返りシートの記述をペアで伝え合うよう促す。 ○⑦⑧の場面の様子に関する問題意識をもてるよう、出来事の状況を具体的に想像することが難しい部分を問いかける。
<p>めあて「想像したことを聞き合い、⑦⑧の場面でぼんやりしている景色をはっきりさせよう」</p>	
<p>2 想像したことを聞き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が降ってきたときの「チリン、チリン」は、どんな音だと思っているのか、ペアの友達に聞いてみよう。 ・前のペアが音読しているくらいの大ききかな。「遠くから」ってあるから、もっと小さいのではないかな。僕たちも音読して確かめよう。 ・読んでいて気になったのだけれど、歌声の主は見えているのかな。友達が言うように、「思いうかべた」とあるから、想像しているのかな。 ・友達「『ぼく』はどのように変わったのか」という疑問は、今僕たちが想像していることと関係するのかな。 ・見えない動物たちの楽しそうな姿を想像するくらいだから、始めの場面よりも動物たちのことが分かってきたのだと思うな。この時の「ぼく」の楽しそうな様子がはっきりしてきたな。 <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わってきた「ぼく」のこの後の様子について、もっとはっきりさせたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と想像したこと同士を結び付けられるよう、想像の視点を示した本文シートをペアで1枚用いながら、想像したことを書き込むよう促す。 ○多様な視点で想像することができるよう、他のペアが想像したことを参考にするよう促す。 ○複数の叙述を基に想像することができるよう、想像の視点をういて発言しているペアを称賛する。 ○⑦⑧の場面と他の場面において想像したことを結び付けるきっかけを得られるよう、「ぼく」の変化に関わる疑問を全体で紹介する。 ○複数の場面で想像したこと同士を結び付けることが難しいペアがそのきっかけを得られるよう、前時まででに想像したことをまとめた掲示物を指し示し、出来事の状況の共通点や相違点を問いかける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価項目</p> <p style="text-align: center;">変化する「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状況について想像したこと同士を結び付け、より具体的に想像を発言したり記述したりしている。 <発言・本文シート②></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の達成感や課題を実感できるよう、「はっきりしたこと」「もっとはっきりさせたいこと」を視点に、振り返りシートに記述するよう促す。

指導と評価の計画（全8時間）

目標	様子や気持ちを表す叙述に着目し、友達と想像したことを聞き合いながら、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について具体的に想像しながら読むことができる。			
評価 規準	(①知識及び技能)言葉には、登場人物の様子や気持ちを表す働きがあることを理解し、それらの言葉を出来事の状態を想像する際に用いている。 (②思考力、判断力、表現力等)様子や気持ちを表す叙述に即して、変化する登場人物の様子や気持ちを含む出来事の状態について具体的に想像している。 (③主体的に学習に取り組む態度)物語を読んで疑問に思ったことに関わって、進んで友達と考えを聞き合い、具体的に想像しようとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○『もうすぐ雨に』の初発の疑問を発表し合い、学習課題をつかむ。 学習課題例：『もうすぐ雨に』の不思議な出来事について想像したことを聞き合い、ぼんやりしている景色をはっきりさせよう。	○変化する「ぼく」の様子や気持ちに関わる疑問をもてるよう、「不思議な出来事」という視点を提示する。	◇変化する「ぼく」の様子や気持ちに関わって、疑問を発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>
	1	○物語を九つの場面に分け、場面ごとの出来事をおおまかに捉える。 ①最初 ～P.69 L. 1 (かえるを逃がす) ②P.69 L. 3～P.70 L. 6 (トラノスケの声が聞こえる) ③P.70 L. 8～P.72 L. 12 (からすとつばめの声が聞こえる) ④P.73 L. 2～P.74 L. 5 (みどりがめの声を聞く) ⑤P.74 L. 7～P.75 L. 3 (しいく小屋のにわたりの声を聞く) ⑥P.75 L. 5～P.76 L. 7 (動物たちの言葉について考える) ⑦P.76 L. 9～P.77 L. 11 (雨が降り、うれしそうな声が聞こえる) ⑧P.78 L. 1～P.78 L. 9 (どしゃぶりの中、トラノスケと会う) ⑨P.78 L. 11～最後 (雨がやみ、動物の声は聞こえなくなる)	○物語を読む必要感を高められるよう、初発の疑問と不思議な出来事とを対応させる機会を設定する。	◇学習課題に対し、これから取り組みたいことに関わる発言をしたり記述をしたりしている。 <発言・ノート③>
ふかめる	5	○不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合う。 (本時4/5) 1. ①の場面 2. ②③の場面 3. ④⑤⑥の場面 4. ⑦⑧の場面 5. ⑨の場面	○様子を表す言葉やたとえの表現を根拠に、「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状態を具体的に想像することができるよう、想像の視点「見る位置」(「(登場人物に)なって感じる」「(登場人物を)見て気付く」と、「見方」(視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚)を提示する。 ○「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付けながら、より具体的に想像することができるよう、想像したことを書き込める、ペアで1枚の本文シートを用意する。	◇変化する「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状態について、根拠となる叙述を指し示しながら想像に用いている。 <発言・本文シート①> ◇変化する「ぼく」の様子や気持ちを含む出来事の状態について想像したこと同士を結び付け、より具体的に想像を発言したり記述したりしている。<発言・本文シート②>
ふりかえる	1	○不思議な出来事の状態について想像したことを聞き合ったことを基に、『もうすぐ雨に』のはっきりした景色について話し合い、単元の学習を振り返る。	○物語を想像することや、想像の仕方のよさに関わって単元の学習の達成感を得られるよう、これまでの単元の学習で蓄積した振り返りシートの記述を読み返す機会を設定する。	◇物語を想像することや、想像の仕方のよさに関わって、振り返ったことを発言したり記述したりしている。 <発言・ノート③>